

聖書日課 『からし種』 2023.5.7-5.14

<p>5月7日 (日)</p> <p>Ⅱサム 20章</p>	<p>「わたしはイスラエルの中で平和を望む忠実な者の一人です」「何故、あなたは主の嗣業を呑み尽くそうとなさるのですか」(19節)。サウル家とダビデ家の王位を巡る争いに多くの 人々と兵士が巻き込まれ、昨日まで「友」だったはずの者同士が今日「敵対」させられていく。しかし、一人の「平和を望む忠実な女」の一言が、一つの町を無益な滅びから救った。</p>
<p>5月8日 (月)</p> <p>Ⅱサム 21章</p>	<p>「アヤの娘リツパは粗布(あらぬの)を取って岩の上に広げた…リツパは昼は空の鳥が死者の上にとまることを、夜は野の獣が襲うことを防いだ」(10節)。リツパは理不尽にも処刑された息子たちの遺体を、昼も夜もたった一人で守り続けた。息子に対する母の深い愛とその涙に心打たれる。今日も平和を切望する母たちの祈りを主が覚えてくださるように。</p>
<p>9日 (火)</p> <p>Ⅱサム 22章</p>	<p>「主よ、あなたはわたしのともし火／主はわたしの闇を照らしてください」(29節)。ダビデの感謝の歌。一介の羊飼いに過ぎない若者がイスラエルの王に立てられていった「ダビデ物語」は、彼自身の立身出世の物語ではない。不思議な主の取り扱いによって多くの敵から守られ、ダビデ自身の闇を照らす主のともし火がダビデを導いてくださったのだった。</p>
<p>10日 (水)</p> <p>Ⅱサム 23章</p>	<p>「主よ、わたしはこのようなことを決してすべきではありません。これは命をかけて行った者たちの血そのものです」(17節)。「あの井戸の水を飲ませてくれる者があればよいのに」というダビデのつぶやきを聞いて、三人の勇士が敵陣を突破し井戸の水を汲みに行った。自らのつぶやきの軽率さに気づき、主の前に悔い改めるダビデの素直さに教えられる。</p>

メール配信登録メール [senfkorn.obc@gmail.com](mailto:senfkorn.obc@gmail.com)

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2023.5.7-5.14

<p>11日 (木)</p> <p>Ⅱサム 24章</p>	<p>「いや、わたしは代価を支払って、あなたから買い取らなければならない」(24節)。主を礼拝するための場所は、ダビデ自身が代価を支払わなければ意味がないことを彼は知っていた。一方、主イエス御自身の代価により、無償で私たちは神礼拝に招かれている。その大きな恵みに対する感謝を私たちはどのようにあらわしていくことができるのだろうか。</p>
<p>12日 (金)</p> <p>I 列王 1章</p>	<p>「彼(アドニヤ)は父から、『なぜこのようなことをしたのか』ととがめられたことが、一度もなかった」(6節)。ダビデ王は息子教育に関しては「父親失格」であった。権力と富は人をおごらせ、勘違いさせる。王は「自分に託された力はすべて主のものであり、主なる神の御心の前に自らを小さくすること」を学ばねばならない。世界のすべての「王」が学ぶ者とされるように。</p>
<p>13日 (土)</p> <p>I 列王 2章</p>	<p>「わたしはこの世のすべての者がたどる道を行こうとしている。あなたは勇ましく雄々しくあれ」(2節)、「主の掟と戒めと法と定めを守れ」(3節)。どんなに力や富を持つ者も必ず死を迎える。ダビデの遺言は「勇ましくあれ」であった。「主の掟を守る事」において「勇ましくあれ」と。人の言葉あふれる世界の中で、主の御心に聴くことは戦いが伴うことを覚えたい。</p>
<p>14日 (日)</p> <p>I 列王 3章</p>	<p>「わたしはあなたの言葉に従って、今あなたに知恵に満ちた賢明な心を与える」(12節)。神は夢の中でソロモンに現れ、「何事でも願うがよい。あなたに与えよう。」と言われた。彼が求めたのは正しくイスラエルの民を政どる知恵だった。自分の立場をわきまえた素晴らしい要求だと思う。神も感心され、求めている富も栄光も長寿も与えられた。</p>